令和２年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人長崎大学

１ 全体評価

長崎大学は、新しい価値観と個性輝く人材を創出し、大きく変容しつつある現代世界と地域の持続的発展に寄与することを目指している。第３期中期目標期間においては、（１）人間の健康に地球規模で貢献する世界的“グローバルヘルス”教育研究拠点の構築、（２）世界最高水準の総合大学への進化に向けた基盤の構築、（３）国際社会で活躍する長崎大学ブランドのグローバル人材の育成、（４）学生参加型の教養教育と学部専門教育の有機的結合及び新たな入学者選抜方法の開発・導入、（５）地球規模の課題解決を考えつつ地域社会の持続的発展及び福島の未来創造への貢献等を基本的な目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、業務改革活動について、事務職員全てを参画させ、提案から具体化の検討、改革意識の定着を促すスキームを構築し、業務の質維持と効率化を図るなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和２年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　感染症共同研究拠点実験棟（BSL-4施設）の設置・運営に向けて、安全管理に関するマニュアルについては、BSL-4実験棟・実験室入退室、実験室利用、病原体等取扱い、物品搬入・搬出、化学薬品取扱い、陽圧防護服使用等のSOP（標準作業手順書）の原案を作成しており、内容に応じて、竣工までに確定するもの、一種病原体の取扱開始（数年後を想定）までに確定するもの等、必要に応じて作業を計画的に進めている。また、教育訓練プログラムについては、陽圧防護服使用マニュアルを仮確定し、検証（仮確定したマニュアルを元に暫定的な教育訓練）を開始し、教育訓練に用いるテキストの原案の作成を開始している。（ユニット「世界的トップレベルの感染症教育研究拠点の構築」に関する取組）

○　第３の研究コア創出プロジェクト「海洋生物の養殖を基軸においた総合水産海洋産業の創出」の核として立ち上げた総合水産海洋産業研究プラットフォーム「次世代養殖戦略会議」が４月より活動を開始し、令和２年度末までに県内外の企業30社、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所、長崎県水産試験場等10団体が参画し、オンラインにより養殖技術開発等に関する意見交換を開始している。令和２年９月に開催した全体会議では、活動報告を行うとともに、今後の活動について討議している。さらに、企業と大学の研究連携及び企業間連携による、養殖システム開発や陸上養殖を用いた魚類養殖の研究母体となる組織及びビジネスモデルコンソーシアムの整備、長崎県と連携した漁業者を交えた養殖課題を抽出するための意見交換会を実施している。（ユニット「知の拠点として地域に根ざした教育・研究を通した人材育成」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載23事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載５事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和２年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 業務改革の推進

業務改革活動について、全ての事務職員に対し、職位別研修等を通じて業務改革の必要性を徹底して教化するとともに、業務改革方策の提案を求め、提案のあった業務改革方策については、事務局所掌の全領域をカバーしたタスクフォース及びワーキンググループにおいて、提案内容の精度を高め具体的な方策を検討し、トライアル＆エラーを繰り返して現場に定着させる方法を採っている。これらにより、特に事務職員の定期異動

時の業務引継ぎ方法をルール化し、整備すべき文書やデータの格納方法等のフォーマットを示した「事務業務の生産性向上ガイドライン」を完成させ、業務の質維持と効率化を図っている。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載４事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載11事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

令和２年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 卓越大学院教育プログラムの実施

学長をトップとする新たなガバナンスを活用することで「グローバルヘルス研究支援グラント」を新設し、学際性の高い人材養成が可能な連携体制を構築している。当該グラントにおいて採択を受けた「新型コロナウイルス感染症発生状況を把握する時空間データサイエンス」課題では、情報データ科学部の教員が研究代表者として研究を実施しており、携帯端末からの位置情報を使用した人流測定の技術により感染モデルを示すなど、グローバルヘルスと情報工学という、専門分野の垣根を越えた分野横断型の研究を実施している。

○ 新たな入試方法の実施

令和３年度入学者選抜の一般選抜の個別学力検査（数学、理科、外国語）に「思考力・判断力・表現力」を評価するための高度な記述式問題を新たに導入し、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため調査書を配点の対象とするとともに、面接又は受験者の「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を筆記により問いかけるペーパー・インタビュー（面接に代わる筆記試験）を課している。また、受験者に理解を深めてもらうため、サンプル問題やペーパー・インタビュー等をウェブサイトに掲載している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ ローカル５Ｇを使った遠隔診療支援に関する実証事業について

離島等における医師不足という地域課題の解決に向けて、総務省より受託した「地域課題解決型ローカル５Ｇ等の実現に向けた開発実証に係る医療分野におけるローカル５Ｇ等の技術的条件等に関する調査検討の請負」を活用した実証事業を行うなど、遠隔診療支援に取り組んでいる。

（診療面）

○ 新型コロナウイルス感染症対応

令和２年７月には「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として長崎県より指定を受け、患者の受入れを行うとともに、新型コロナウイルス感染症陽性妊婦を受け入れる県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、長崎県内の診療所並びに周産期母子医療センターと連携し、長崎県内の周産期における新型コロナウイルス感染症の検査体制並びに医療体制を構築することに加え、クルーズ船「コスタ・アトランチカ号」で発生した新型コロナウイルス感染症発生事案への対応支援を行うなど新型コロナウイルス感染症対応に取り組んでいる。

（運営面）

○ 災害対策本部の設置

新型コロナウイルス感染症対応のため、「新型コロナウイルス感染症災害対策本部」（本部長：病院長）を設置し、災害対策本部運営委員会（「院内感染対策委員会」「病院運営会議」合同））において重要案件についての決定を行うとともに、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する診療継続計画（BCP）」を策定するなど取組を推進している。